

# 宝の海から

白浜で出会った生きものたち

67

京都大学助教授 久保田 信(京都大学 瀬戸臨海実験所)

## 凍死打ち上がる 熱帯魚たち

冷え込みが厳しい2月 凍死打ち上がる熱帯魚たち



体長1.5mのオナガウツボ (日本の分布北限記録)

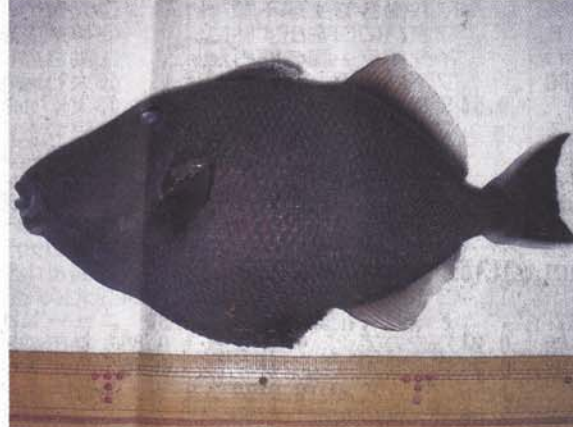
多くなった。毎日午後2時に北浜に観察しており、今回は2月8日の夕方に10種19個体が打ち上がったのを発見した。この日にもっとも多かったのがツマジロモンガラで9個体、次にネットアイミノカサゴが2個体で、あとの8種は1個体ずつだった。この中には、これまで確認されたことがなかったヘリシロウツボ幼魚とアミメウツボハギも交っていた。あとは、ニセカシランハギ、キリンミノ、アオヤガラ、ハナキンチャクフグ、そしてよく打ち上がるウミスズメ、シマウミスズメだ。

2月に入って打ち上げが目立つようになり、1日には大変珍しいクロハコフグ(連続23回で網介の幼魚が1個体打ち上がった。この種は、200

2年に北浜に初めて打ち上がった5個体(当時36年ぶりの発見)、続いて04年に1個体しか打ち上がっていない。今年もツマジロモンガラの大型個体が多数打ち上がった。2月10日午後3時ごろにも9個体が打ち上がった。8日と10日の両日以外の日は、どの



北浜に打ち上がったネットアイミノカサゴ(紀伊半島が分布の北限)は、瀬戸臨海実験所水族館でも観察できる



数多く打ち上がったツマジロモンガラの成魚。連続26回の幼魚の模様との相違に注目

日も数個体ずつの打ち上げだったが、冬季はずっと連続して打ち上がったのが印象的だった。他の魚種も、ツマジロモンガラと同様に、毎日打ち上がる個体数はくわすかだった。私にとって今年初めて打ち上げ魚種として確認できたのは、カモハラギンボである。これは18日に1個体を発見し、他の日にも干からびた1個体を発見した。

13日には熱帯系の珍種オナガウツボが1個体がひん死の状態で見つかった。通常は沖縄以南に分布する種類。日本最長のウツボで全長3.5mにも達する。体をついてみると、ラの大形個体が多数打ち上がった。2月10日午後3時ごろにも9個体が打ち上がった。体長が1.5mほどあり1人で運べずとも

ないで、京都大学瀬戸臨海実験所教員の田名瀬英明さんに協力していただいた。オナガウツボを水槽へ入れるとすぐに息を吹き返した。しばらく静養させた後、数日後に瀬戸臨海実験所水族館のウツボコーナーでお目見えさせた。オナガウツボはその特徴的な細長い体をくねらせて元気があった。だが、ぐるぐると落ちて着きなく回りつけ、時には上下にも移動するなど、行動はごくなくおかしかった。泳ぎ方もバランスを欠いており、不自然な体勢だったのは平衡感覚がまひしていたせいかもしれない。気になっていたのとおり、数日後には死亡してしまっ

このオナガウツボは、既にはいつている体調2倍ほどもあるニセゴイシにおとなしい動物のよう

# 珍魚オナガウツボなども

今年も前からの田名瀬さんが、継続調査されている。田名瀬さんによると、今年も1月下旬から3月上旬まで凍死が見られた。中でも最多数の魚種が打ち上がったのは、2月5日(28個体)と6日(48個体)のことであった。



瀬戸臨海実験所水族館のウツボコーナーで最大のニセゴイシウツボ。体長は2.5mほどある

今年も前からの田名瀬さんが、継続調査されている。田名瀬さんによると、今年も1月下旬から3月上旬まで凍死が見られた。中でも最多数の魚種が打ち上がったのは、2月5日(28個体)と6日(48個体)のことであった。